

NPO 法人岡崎がくどうの会
令和5年度 愛知県放課後児童支援員キャリアアップ研修
テーマ4 『安全計画の策定と実践』

～マニュアルを作成し、リスクマネジメントを行いましょう～

【クラブ】(風の子クラブ) 【名前】(鈴木 美幸)

今年度中に作成、提出しなければならない安全計画。作成に当たり、近隣の市町村の安全計画書を拝見させてもらったが、どのように進めていったらいいのかヒントが欲しくて受講した。

安全計画の策定は、子どもたちが明るく楽しく過ごすために必要な物であり、子どもはもちろん、全職員、保護者を守る視点も大事であること。そして、普段の生活は、安全な学童保育所であること、有事の際は子ども・全職員・保護者を守ること、避難所生活になった際は、楽しく生活できるようにすることが安全計画の策定において重要だと学んだ。

とある学童保育所では、有事の際の避難所生活において、子どもたちが楽しく過ごせるための手立てとして、小学校の空き教室を使わせてもらう事を書面にて学校長と契約を交わしているそうだ。

震度4で名古屋市内の公共交通機関は、電車・バス・地下鉄がストップすること(保護者がお迎えに来るのに時間がかかる事や、お迎えに来られないこともある)や、有事の際にはLINEが比較的繋がりやすいこと、171の伝言ダイヤルは、毎月1日・17日にテストができることも知り、いつ起こるかかわからない有事に備え、今できる事を早急にしなければと危機意識がさらに高まった。

防災リュックは風の子にも用意してあるが、その中に当日の登所者が分かるものを入れておくことや、アレルギーの子の名札(名前と何に対してのアレルギーがあるのかを明記したもの)を入れておくこと避難所でスムーズな対応できること、指導員の役割分担表を学童保育所内に掲示しておくこと、有事があった際は子どもたちを守るという姿勢を、子ども・保護者に伝えていくことも大切だと学んだ。

後半のグループワークではいい機会だと思い、各学童保育所での避難訓練の進め方・頻度、備蓄品、避難所での生活の対応などを聞いてみた。やはり、不審者対応の訓練は難しいこと、置き場がないため食料、水、防災頭巾やヘルメットなどは用意してないこと、避難所での生活は、全く想定していないことが分かった。風の子にはアルファ米(賞味期限が近いが・・・)はあるが、水やお茶はないため1人1本ずつにするのか、2リットルサイズのを準備しておくのか、早急に検討しなければならないと思った。(動画で見せてもらった県内の学童保育所の避難訓練では、1人1本のお茶を持って避難していた)

この仕事につく際上司から「学童保育所は安心・安全な生活を保障する場と言われますが、要は命を守る仕事です」と言われたことを鮮明に覚えており、その言葉を常に念頭に入れ子どもたちと関わってきたが、この研修を受講し、さらにその思いが強くなった。